

auAM Quantitative-ControlレバレッジNASDAQ100

追加型投信／海外／株式／
特殊型（その他）

（愛称：Qレバナス）

NASDAQ
100
CONTROL
BULL
×1-3

※ファンド名称のauAMはauアセットマネジメントの略称です。

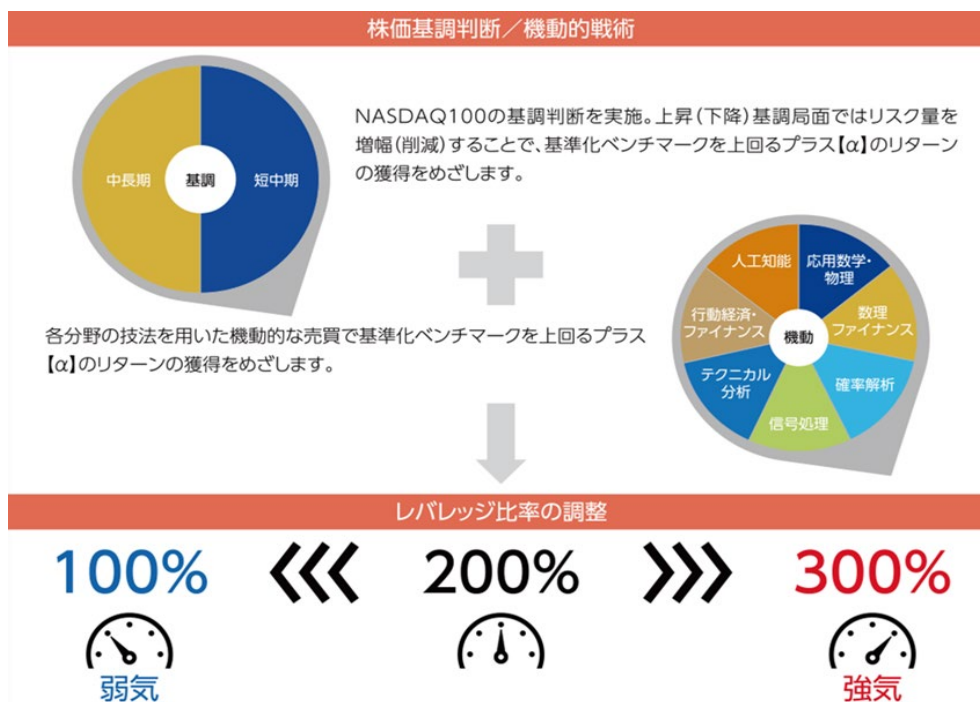
「第十期パフォーマンスについて」

作成日：2026年10月2日

- 当資料の内容は過去データを基にした結果を示すものであり、将来の運用成果を約束するものではありません。
- お申込みの際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

改めてQレバナスの運用の仕組みについて解説します

運用戦略（レバレッジコントロール）について



※実際のレバレッジ比率は、買建玉の時価総額の変動等により変動します。目標レバレッジ比率には一定の変動許容幅を設けます。

Qレバナスでは、NASDAQ100 先物買建 200%のベース部分にクオンツによるアクティブ運用を加えて先物の組入ウェイトをコントロールしています。

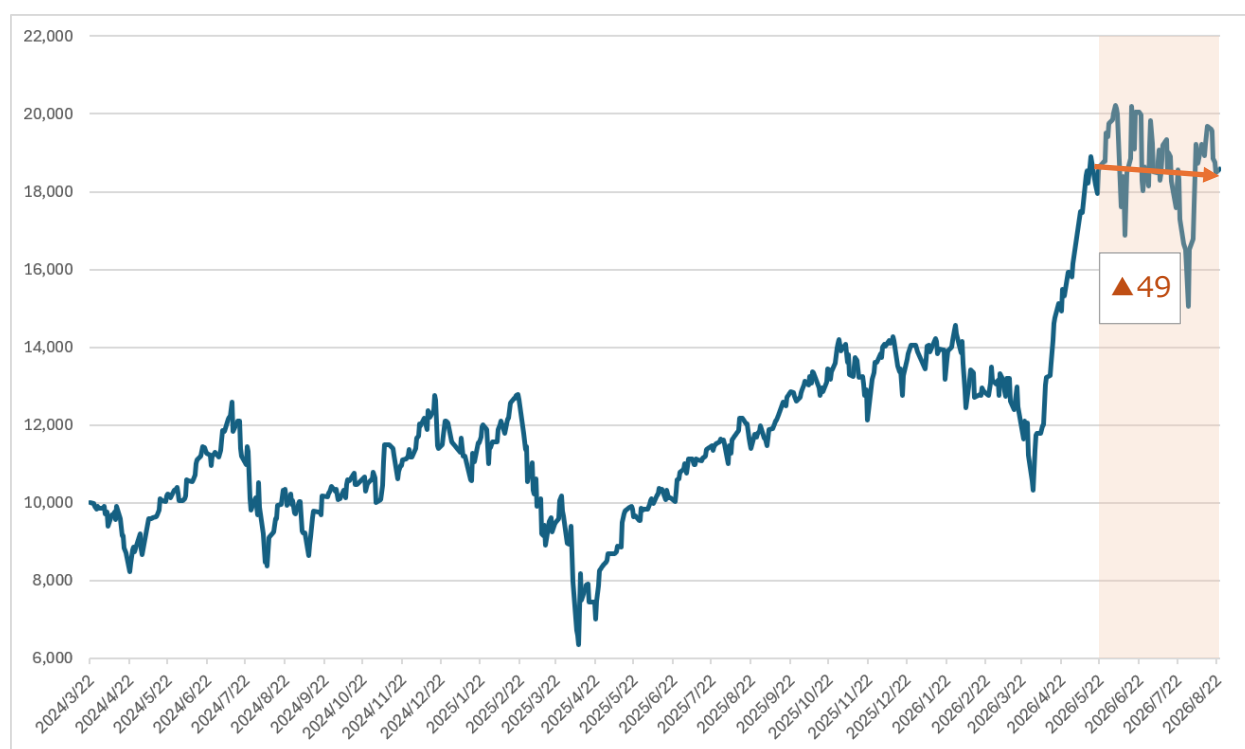
この“アクティブ運用部分”では NASDAQ100 先物の組入ウェイトを-100%~100%でコントロールします。これはそれぞれアプローチの異なる【株価基調判断】と【機動的戦術】により決定されます。

このアクティブ運用部分（-100%~100%）と先物買建 200%のベース部分とあわせてレバレッジ比率 100%~300%で調整します。

基準価額の推移について (前期決算日比 49 円のマイナス)

図表 1 の網掛け部分は、当ファンド第十期決算期間（2026/5/22~2026/8/24）の基準価額の推移を示したものです。決算日（2026/8/24）基準価額は、18,595 円、前回決算日比▲49 円（第九期決算日 2026/5/22 基準価額 18,644 円）となりました。

【図表 1 基準価額推移 設定来（2024 年 3 月 22 日）～（2026 年 8 月 24 日）】
(円)



「アルファ」の推移について（第十期アルファは 585 円の改善）

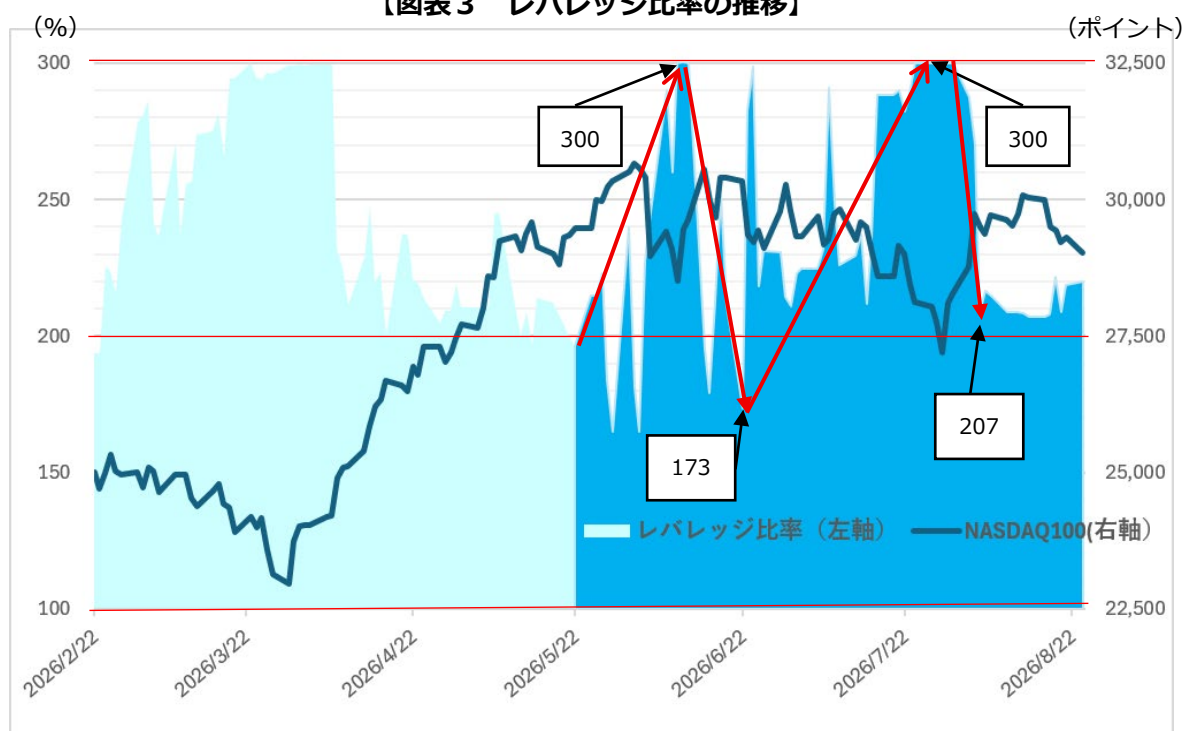
基準化ベンチマーク NASDAQ100 指数の 2 倍（円ヘッジベース）との比較

図表 2 は、当ファンドの第十期決算日（2026/8/24）までの基準価額と基準化ベンチマーク（NASDAQ100 指数の 2 倍（円ヘッジベース））との差「アルファ」（以降アルファと記載）の推移を示したものです。アルファは、前回決算時の▲1510 から▲925 円となり、585 円の改善、成功報酬は発生しませんでした。この間のレバレッジ比率の動きを図表 3 に表しております。

【図表 2 第十期 基準価額と基準化ベンチマークとの差（アルファ）の推移】



【図表 3 レバレッジ比率の推移】



第十期のレバレッジ比率とマーケットイベントの振り返り

第十期の NASDAQ100 指数は対象期間中 1.6%下落し、ほぼ横ばいでの推移となりました。

ただし、その間は膠着状態ではなく、**6月上旬の高値形成→7月の大幅調整→8月の反発**と、値動きの大きい期間でした。

当ファンドでは、6月上旬までの上昇局面にてレバレッジ比率を段階的に引き上げ、NASDAQ100 指数の高値形成直後、レバレッジ比率を引き下げる対応を行いました。その後の下落局面ではレバレッジ比率を再度段階的に引き上げた結果、アルファの改善に寄与しました。

今後も市場環境の変化に応じてモデルに基づいた機動的なレバレッジ調整を行い、投資家の皆さまの資産形成に貢献してまいります。

主なマーケットイベントとレバレッジ比率について説明します。

【マーケットイベント】

① 5月下旬～6月上旬：AI 関連株への期待を背景に上昇

AI 関連需要への期待や堅調な企業業績を背景に、半導体・大型テクノロジー株を中心に買いが優勢となり、NASDAQ100 指数は6月上旬にかけて上昇しました。一方、その後は米国の金融政策に対する警戒感などから、次第に上値の重い展開となりました。

【レバレッジ比率】6月上旬の高値形成過程において 196%から 300%へ引き上げました。

② 6月～7月：金利上昇と AI 投資への警戒から調整

FRB の金融引き締めに対する警戒感や米国長期金利の上昇に加え、AI 関連企業による大規模な設備投資が収益拡大につながるまでの時間軸を懸念する動きが強まりました。半導体株を中心に利益確定売りが広がり、NASDAQ100 指数は7月に▲6.6%と大きく下落しました。

【レバレッジ比率】6月上旬の高値形成直後レバレッジ比率を 300%から 173%へと圧縮しました。

③ 8月：好調な企業決算とインフレ鈍化を受け反発

7月の大幅な調整後は、NASDAQ100 構成企業の好調な決算や AI 関連企業の成長期待が改めて評価されました。また、米国のインフレ指標が市場予想を下回り、追加利上げへの警戒感が後退したことも追い風となり、NASDAQ100 指数は8月は7月29日安値より+6.7%と反発しました。

【レバレッジ比率】下落傾向にあった7月下旬に向けて徐々にレバレッジ比率を引き上げ、安値を形成した7月24日～7月31日の1週間についてはレバレッジ比率を 300%とし、その後の NASDAQ100 指数の上昇と共に8月14日には 207%へ圧縮しました。

当ファンド設定来の当社レバナス 100 との比較

当ファンドでは、種々の投資戦略を活用しながら、NASDAQ100 株価指数（米ドルベース）の値動きの 2 倍程度となることを目指したファンド（図表 4 の当社レバナス 100 ）より高いパフォーマンスをお客様にお返しできるよう、日々努めて参ります。（基準化ベンチマークとの比較とは異なりますが、投資家の皆さまが普段見ていらっしゃいます当ファンド（図表 4 の Q レバナス）と当社 auAM レバレッジ NASDAQ100（図表 4 のレバナス 100）との比較グラフを下記にお示しします。成功報酬計算とは異なるものである点ご注意ください。）

【図表 4 Q レバナス設定来の当社レバナス 100 との比較グラフ】

※2024/3/22 時点を 100 として指数化



当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は、au アセットマネジメント株式会社がファンドに関連する情報等をお知らせするために作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。ファンドの取得の申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の[投資信託説明書（交付目論見書）](#)の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。
- Qレバナスの詳細情報（リスク・費用等を含む）につきましては、[こちらのファンド詳細ページ](#)をご確認ください。
- 投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割り込むことがあります。
- 信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。
- 投資信託は預貯金とは異なります。
- 投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 当資料の記載内容は過去のデータによるシミュレーションであり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料は、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の実質的な投資成果を示すものではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料中に示された情報等は、基準日時点のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。
- 分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。
- 当資料の写真やイラストはイメージとして掲載するものです。
- ファンド名称の auAM は au アセットマネジメントの略称です。